

秋の陽だより

練馬区立光が丘秋の陽小学校

<http://www.akinohi-nerima-tky.ed.jp/>

練馬区光が丘2-1-1

TEL 3976-6331

FAX 5383-3595

第 71 号



平成28年1月8日

新たな3学期制に向けて

校長 関川 健

あけましておめでとうございます。平成28年が皆様にとって素晴らしい年になりますことをお祈りいたします。本年も光が丘秋の陽小学校をよろしくお願い申し上げます。

さて、ご承知の通り、平成28年度から新たな3学期制が始まります。これに伴い、学校では、特に学校行事の在り方や時期等について、慎重に検討を重ねてきたところです。本校の教育目標や学校経営方針に基づき、また、児童の実態や地域の特色等を総合的に踏まえて、学校行事を組んでいきます。

まず、大きく変えるのは、学芸的行事です。従来は、学芸会と展覧会を隔年で実施してきました。元々音楽会的な要素を取り入れた行事がなかったことと、3年に一度5年生が対象になる連合音楽会という大きな行事をも含めて考えました。そこで、奇数学年は音楽発表、偶数学年は演劇発表を行う学芸発表会を2年連続で実施し、3年に一度のサイクルで展覧会を実施することにしました。学芸発表会では、6年生が演劇発表になるようにします。連合音楽会の年度の5年生は、その発表曲プラスαで披露します。その学年が6年生の年は展覧会です。

次に変えるのが、校外学習です。従来は、年度当初の学年・学級づくりに役立てることを主なねらいとして1～4年生は、学年（ブロック）別に遠足を実施していました。28年度からは、それらに代わり、全校遠足を実施します。学校の重点目標「力を合わせる子供」の具現化のための大きな柱の一つである縦割り班（なかよし班）活動の一層の充実を図るために行います。年度当初の全校遠足でなかよし班の結束を高めてから、年間の活動を充実させ、互いに相手を大切に、思いやる気持ちと実践的態度を育てます。上級生を活躍させ、責任感と自己有用感を高め、下級生が憧れる手本となって行動できるようにするプラスのサイクルを生み出していきます。

移動教室は、練馬区全体で見直しが図られ、6年が月～木、5年が木～土という曜日設定で、年間を通じて実施することになりました。28年度、本校は従来と時期が逆になり、5年が5月、6年が10月の実施と決まりました。

運動会は、秋開催（10月1日予定）です。保護者会、個人面談等につきましても、時期や回数の見直しを図ります。様々な変革を伴っての新たな3学期制移行ですが、皆様のご理解とご協力の程お願い申し上げます。

1 月 予 定

- | | |
|--|--------------------------|
| 8日（金）全校朝会 授業始・給食始 安全指導 | 18日（月）発育測定（2年） 全校朝会 クラブ |
| 9日（土）授業日 誕生学（4年児童・保護者） あきのひコンサート（3校時 全児童） | 19日（火）発育測定（1年） |
| 11日（月）（祝）成人の日 | 20日（水）社会科見学（3年） |
| 12日（火）全校朝会 委員会 5時間授業 | 21日（木）なわとび旬間始 連合図工展終 |
| 13日（水）避難訓練 | 23日（土）連合書きぞめ展（24日まで） |
| 14日（木）発育測定（5, 6年） | 25日（月）全校朝会 クラブ |
| 15日（金）発育測定（3, 4年） | 26日（火）四中乗り入れ授業（6年）5, 6校時 |
| 16日（土）連合図工展始 | 27日（水）午前授業 4年研究授業（5校時） |
| | 28日（木）校内書きぞめ展始（2月13日まで） |

収穫祭

2015. 12. 12

収穫祭の歌



オープニングは秋の陽小ならではの『収穫祭の歌』を六年生が合奏で盛り上げ、全校で演奏しました。

1年 さつまいも



『やさいのうた』に合わせて収穫した野菜の時に手拍子を入れてかわいらしく紹介しました。

2年 さつまいも・トマト



絵本『野菜のおなか』よりの野菜の切り口をクイズにしたり、綿の花や美について調べたことや分かったことを発表したりしました。

3年 大根



大根ダンスをしたり、大根の調べへ学習したことなどをどのように発表するかなど自分達で考えたりしました

4年 にんじん



にんじんサンタが登場し、収穫したにんじんについてクイズで紹介しました。「ホッキータンス」も登場し大成功でした！

5年 もち米



役者揃いの五年生は米を育てた経験之歌と劇で紹介しました。おもちも美味しくいただきました。

6年 じゃがいも



ジャガイモを育て、収穫し、調理した様子を紹介しました。実行委員が挨拶・司会・進行役も担当しました。

もちつき



餅米が餅になっていく様子をスクリーンに映し、校長先生も餅つきに参加し、盛り上がりました。

4年 社会科見学

12月17日（木）、4年生は豊洲のガスの科学館（がすてなーに）と浅草見学に行ってきました。

ガスの科学館ではエネルギーやガスのひみつを実験やクイズ、ワークショップなどを楽しみながら学習してきました。私たちが使っている都市ガスは、天然ガスをLNGにして大きなタンカーで運ばれてくることを学びました。自由に学べるエリアでは、出された課題に対してとても熱心に答える秋の陽小の子供たちに、案内係の方からお褒めの言葉をいただきました。自由に学べるエリアでは、ガスを上手にを使ってチャーハンや野菜炒めを作るシュミレーションや、エコドライブレース、エコをテーマにした指令の通りに買い物をするコンビニなど、楽しみながら学習することができました。



浅草見学では、グループに分かれてボランティアガイドの方々に案内していただきました。雷門（風雷神門）、仲見世、浅草寺、浅草神社（三社）、伝法院通りなどをガイドさんの楽しい説明で案内していただきました。当日は浅草寺で歳の市（羽子板市）が開かれており、伝統の市の雰囲気味わってきました。



（4年担任 近藤 洵）

なわとび旬間

本校では、1月22日（木）～2月5日（木）の間、中休みの5分間を使って全校でなわとびに取り組みます。なわとびは

- ① なわ1本あれば、あまり場所を選ばずに手軽に運動できる。
- ② 技の種類も多く、自分でめあてをもってチャレンジしたり友達と競い合ったりできる。
- ③ 全身運動なので、瞬発力・持久力・調整力など、様々な体力の向上を図ることができる。

など大きく分けて3つのメリットがあります。なわとびを通して、体力の向上をさらに図っていきたいものです。

日頃、運動不足気味のご家庭の皆さんも、ぜひこの機会に昔を思い出して、子供たちと一緒になわとびにチャレンジしてみたいはかがでしょうか。

（体育的行事委員会 永尾 清夏）

連合音楽鑑賞会

12月1日（火）練馬文化センターで連合音楽鑑賞教室が行われました。都響とも呼ばれて親しまれている、東京都交響楽団がオーケストラの演奏をして下さり、本校の5年生が聴きに行きました。練馬区内の小学生1000人を超す児童が集まり、静寂の中オーケストラの音色を堪能しました。

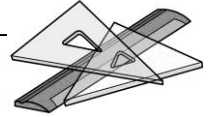
～ プログラム ～

- 1 歌劇「カルメン」前奏曲 ビゼー 作曲
- 2 楽器紹介「都響・オーケストラクエスト」
- 3 組曲「カレリア」より
III 行進曲風に シベリウス 作曲
- 4 チャルダッシュ（マリンバソロ） モンティ 作曲
- 5 全員合唱「ビリーブ」 杉本竜一 作詞作曲
- 6 交響曲第9番 ホ短調「新世界より」 第4楽章
ドヴォルザーク 作曲

聴きに行くにあたり、オーケストラの様々な楽器や楽曲についての事前学習をしました。帰ってきてから「あの曲が良かった！」「あの楽器がすごかった！」「オーケストラの伴奏で歌って気持ちが良かった！」「生の音色はDVDと違っていた。」など心から楽しんだ様子が見受けられ、充実した時間が過ごせました。
（音楽専科 濱 美恵）



校内研究だより



学習するにも遊ぶにも、「原動力」というものがあると思います。それは楽しさを伴った必然な欲求とでも言うのでしょうか。例えば、サッカーボールが目の前にあってゴールの場所が決まっていたなら、ゴールに蹴り入りたいという気持ちが自然にわいてきて、「やりなさい。」と言われなくても、自らボールを蹴ろうとします。また、目の前にクギと金づちと木片があれば、やはり、クギを打ちたくなります。これが、子供から自然にわき上がってくる「原動力」です。

今年度の本校の研究は、ここに着目することから授業をとらえることを目指しています。算数では、子供が「数えなくなる」とか「測りなくなる」「比べなくなる」とはどういうことなのだろうか、という根本的な欲求の状況をイメージする、ということです。ここを教える側がしっかりと把握をしていないと、「教授型」の受動的な思考になってしまい、関心や意欲が高まる主体的な活動を伴う授業を行うことができないのではないかと考えています。学習においては、「授業が楽しい」ということが最も大切です。「楽しい」という原動力を活かせるように、今後も研究と工夫を重ねていきます。

研究主任 玉置 一仁

職員室のひととき

「感謝」で幸せを感じる



「ありがとう」と心から言えた時、私たちの心は温かくなり、気持ちがいいものです。温かい気持ちになれた時は、幸せを感じます。この感謝する機会を増やすことができれば、心が温かくなる機会も増えるはずで、感謝できることを探すことで、幸せを感じられる瞬間を積極的に増やせることになるのです。

例えば、毎日の食事場面を想像してください。「いただきます。」を言う時に、「美味しい食事をありがとう。」という想いを込めて、作ってくださった方に感謝できているでしょうか。考えてみれば、毎日、自分のために時間を使って、食事の用意をしてくださっているだけでも有り難いことであるはずで、それなのに、それが当然のことであると勘違いしてしまい、感謝の心が薄れてしまっていないでしょうか。

日々の様々な出来事を「感謝」の視点で考えてみるだけで、幸せを感じることができるはずで、皆が笑顔で幸せを感じられるように、まずは、自分から始めようと思っています。



副校長 平岡 そえみ